

2025年度 韓国/祥明大學校 交換留学報告書

総合管理学部 4年 長尾悠生

私は、2025年3月から12月までの約10ヶ月間、韓国の祥明大學校天安キャンパスに交換留学生として在籍していました。私は、独学で韓国語を勉強したり、国際交流イベントに多く参加する中で留学を志しました。約10ヶ月間韓国でどのように生活していたかを共有するこの報告書が、韓国留学や留学に対して興味を抱いていらっしゃる方へ参考になれば幸いです。

【寄宿舍】

寄宿舍は、2025年度より学校から徒歩約5分の場所にある「동보아파트」というアパートでの生活となりました。部屋には、靴箱、クローゼット、机、椅子、ベッド、冷暖房、キッチンなどが備え付けられており、生活する上で十分な設備が整っていると感じました。また、各部屋には暗証番号式のオートロックが設置されており、防犯面でも安心できる環境でした。

一方で、布団や室内用スリッパ、ハンガー、洗剤などの生活必需品は各自で用意する必要がありました。私は布団を事前にEMSで韓国へ送付し、その他の生活用品については先輩方から譲っていただいたものを使用したほか、購入する際にはダイソーや韓国の通販アプリである쿠팡(Coupang)を利用しました。なお、쿠팡(Coupang)を利用するには外国人登録証の認証が必要であり、現地到着後およそ3~4週間で利用可能となりました。

洗濯機や乾燥機はアパート内には設置されていなかったため、徒歩5~10分ほどの場所にあるコインランドリーを利用していました。現金・クレジットカードのいずれも使用可能で、洗濯から乾燥まで含めて約1時間で完了します。私は主にマートの横にあるコインランドリーを利用していました。アパートでの生活のため、点呼や門限などの規則はありませんでした。ただし、学期初めにはガスや水道の点検が実施されました。連絡事項がある場合は、管理職員の方、またはアパート居住者が参加しているカカオトークのグループチャットを通じて周知されていました。



寮の様子

【授業】

単位は各学期に 12 単位以上取得する必要があります。前期は、日本語学科の授業を 2 科目、韓国語学科の授業を 1 科目、教養科目を 2 科目履修しました。日本語学科では、SDGs をテーマにグループで討論・発表を行う授業や、NHK のニュースを題材に、日本で時事問題がどのように表現されているかを学ぶ授業を履修しました。韓国語学科では、韓国の古典について学び、グループで発表を行う授業を履修しました。また、教養科目として、世界各国の文化的特性の概要を学ぶ授業と、ドイツ語入門の授業を履修しました。

後期は、日本語学科、教養科目、ドイツ語学科、デザイン学科の授業をそれぞれ 1 科目ずつ履修しました。日本語学科では、ビジネスシーンで使用される日本語を学び、グループごとにシチュエーションを設定して発表を行う授業を履修しました。教養科目では、総合管理学部の 3 年次に開講される人工知能論に相当する内容の授業を履修しました。また、ドイツ語学科では「ドイツ語基礎 2」を履修し、ゲーテ試験 A2 レベルに相当する文法内容を学びました。さらに、デザイン学科ではセラミックデザイン学科の陶芸実習の授業を履修しました。

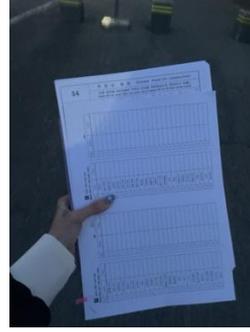
私は総合管理学部に所属しているため、単位互換はほとんどできないと聞いており、祥明大学でしか受講できない授業を中心に履修しました。特に、韓国語を用いて他の言語を学ぶことに興味があったため、これまで学習経験のなかったドイツ語の授業にも挑戦しました。

専攻科目の中には内容が難しく、聞き慣れない専門用語に苦勞する場面もありましたが、予習・復習を行うことで授業内容を理解し、授業についていくことができました。また、教授が学生の理解度を確認してくださることも多く、分からない点があっても質問しやすい雰囲気の中で授業を受けることができました。韓国の授業では、自分の意見を述べたり発表したりするなど、学生の自発性や能動性を重視するスタイルが多く、日本の授業形態との大きな違いに驚かされました。

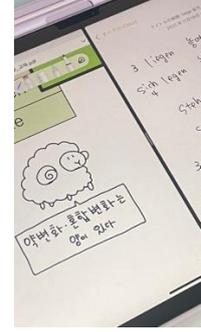
さらに、韓国では図書館や自習スペースが 24 時間利用できることが多く、試験期間中には深夜まで勉強に取り組む学生の姿が多く見られ、その姿勢に大きな刺激を受けました。私はテストの約 2 週間前から友人と一緒に勉強を行うことで、内容を深く理解した状態で試験に臨むことができました。明け方まで友人と図書館で勉強することもあり、非常に充実した学習経験となりました。



陶芸の授業の様子



友達に勉強を教えてもらったり、
夜中まで勉強する様子



【行事】

前期・後期を通して、さまざまなイベントが行われました。

4月には小規模な学園祭のようなイベントがあり、多くのフードトラックが出店し、昼から夜にかけて学生によるステージ発表が行われていました。5月には学科のMT（合宿）もありましたが、私は参加せず、仲の良い友人と数人で過ごしていました。

前期には、日本語学科が主催するサークル活動に参加し、日本の文化と韓国の文化を紹介し合う交流の機会がありました。その際、研究室の友人と開発した「熊本かるたっ」というアプリを用いて、熊本の方言を紹介する活動も行いました。毎回の活動に向けて企画を考え、スライドを作成することは大変でしたが、お互いの国の文化について理解を深めることができただけでなく、授業では接点のなかった学生とも、ゲームを通して交流することができました。特に、自分が企画した活動の際に、参加者が楽しそうに取り組んでいる様子を見ることができ、非常に充実した時間となりました。

後期には、韓国の学生や他国からの留学生と交流できる「ボディプログラム」に参加しました。チームメンバーと食事をしたり、ボウリングに行ったり、学内で行われるイベントに参加したりと、交流を通じて充実した時間を過ごすことができました。

また、後期には学園祭も開催され、有名なアーティストによる公演も行われました。イベントの規模の大きさや、学生たちの熱量の高さに大きな驚きを感じました。



学校のイベント



学科のサークル



ボディプログラムでの活動

【金銭面】

韓国ではカード決済が主流であり、日常生活のほとんどの場面でクレジットカードを使用することができました。まれに決済エラーが発生することはありましたが、大きな問題なく利用することができました。カードは、主に使用するものとは別に、予備として2枚程度持参することを勧めます。

現金は主に交通カードのチャージや、韓国の銀行口座への入金の際に使用しました。韓国の銀行口座については、友人同士で割り勘をする際に口座送金を行う機会が多いため、開設しておくと感じました。

滞在中の生活費は、毎月支給されていた奨学金と、留学前に自分で貯めた貯金によって賄っていました。物価上昇や円安の影響を受ける可能性もあるため、生活費に加えて外出や余暇活動も楽しみたい場合は、事前に約100万円程度の貯金があると安心だと思います。

【交通】

韓国は日本と比べて交通費が安く、バスや地下鉄は一律料金制で、交通カードを利用した場合は30分以内の乗り換えが無料となっています。私は以前の訪韓時に作成していたT-moneyカードを使用していました。

キャンパスのある天安からソウルまでは、地下鉄で約2時間、高速バスを利用すると約1時間で到着します。두정駅からソウルまでは地下鉄で約3,000ウォン、高速バスは学生割引を利用して約5,000ウォン程度で移動することができました。高速バスの予約は、バスターミナルに設置されているキオスクを利用したほか、友人がスマートフォンのアプリを使って予約してくれることもありました。

天安は交通の利便性が高く、地下鉄やバスに加えてKTXなどの高速鉄道も通っているため、遠方へ移動する際にも比較的容易に移動することができました。

【休日】

学期中の休日は、友人と遊んだり買い物に出かけたりして過ごしました。エバーランドを訪れたり、友人が自宅で料理を振る舞ってくれることもありました。また、好きなアーティストのコンサートやミュージカルを鑑賞する機会にも恵まれ、多くの楽しい思い出を作ることができました。

夏休み期間中は、日本と韓国を行き来して過ごしました。韓国では友人と過ごす時間に加え、母が韓国を訪れてくれたため、一緒に観光をしながら有意義な時間を過ごすことができました。一方、日本に帰国した際には、就職活動や研究室の行事に参加したほか、友人と過ごす時間も確保でき、心身ともにリフレッシュした状態で新学期を迎えることができました。

冬休みは、学期終了後、年末まで韓国で過ごしました。帰国前には多くの友人と時間を共にし、これまで訪れたことのなかった場所にも出かけるなど、最後まで充実した留学生活を送ることができました。



エバーランド



友達と他の都市へ行った時



クリスマス



誕生日を祝ってもらった時



友達の家でご飯を作った時



ハイデルベルグ市との交流事業
(県大にて)

【まとめ】

留学前は、長期間外国で一人で生活できるのかという不安や、自分に自信をつけたいという思いがありました。しかし、周囲の環境や人々に恵まれ、一生の宝物になるような、非常に充実した留学生活を送ることができました。留学中は自分自身と向き合う時間も多く、自分の将来について改めて考える機会にもなりました。語学力の向上だけでなく、さまざまな経験を通して人としても成長することができた、非常に意味のある10か月間だったと感じています。どのような出来事も、振り返ってみればすべてが大切に素敵な思い出であり、それらを鮮明な記憶として心に残すことができたことを嬉しく思います。

また、留学生活を送るにあたり、多くの方々に支えられてきました。留学に送り出してくれた家族、CIEEの皆様、担当教授である飯村先生、応援してくれた日本の友人、そして祥明大学の教授の方々や、親しくしてくれた韓国の学生をはじめ、会うことのできたすべての方々に心より感謝申し上げます。

ここまで本報告書をお読みいただき、誠にありがとうございました。